



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

まつりにぎわう2日間

10月12日・13日に前橋まつりを開催しました。中心市街地の一部を車両通行止めにし、だんべえ踊りや鼓笛吹奏楽・和太鼓演奏などを実施。だんべえ踊りでは音楽に合わせて息の合った踊りを披露し、会場は「そうだんべえ」の掛け声でにぎわいました。



本を通じてつなげる縁

2年ぶり2回目となる「前橋BOOK FES2024」を10月19・20日に中心市街地で開催しました。全国から集まった約5万冊の本の中からお気に入りの本を探る人たちやトークショー、周辺施設で開催した関連イベントなどに参加する人たちにぎわいました。



環境配慮の理解を促す

10月6日にまえばしエコ・ファームフェスタ2024を道の駅まえばし赤城で開催しました。環境に配慮して市内で生産された農畜産物などを販売するマルシェやワタミオーガニックランド・小出浩平さんを講師に迎えた講演会、クイズ&抽選会を実施しました。



いきいき
まえばし人
市消防団長
堀越徹也さん・52歳
富田町



自分たちの地域は自分たちで守る

火事や災害が起こった時に、消防職員と協力して消火活動や避難支援活動をする消防団。堀越さんは平成8年に入団し、今年で活動29年目になる。消防団は、消火訓練や点検作業を月に1・2回実施するほか、災害時は昼夜を問わず現場に駆け付ける。「本業の仕事しながら活動するため、仕事の繁忙期と火災が重なった時は大変でした。しかし、仕事を優先し、消防団は可能な範囲で活動することができました」堀越さんの本業は農業。平成28年に日本農業賞の大賞に輝くなど、優れた栽培技術で高品質のキュウリを栽培している。長く消防団の活動を続けられたのも家族や従業員の協力あってこそという。

「消防団に入ると、いろいろな職種の人と交流できます。『自分達が地域を守る』という気持ちで、地元の仲間たちと共に活動することにやりがいを感じます」昨年4月、全20分団・約1,100人の消防団員を率いる消防団長に就任。女性団員も活躍しているという。

「被災者への対応などで女性の視点を生かした活動ができます。自主的に応急手当講習の指導員の資格を取得する女性団員もいます」と目を細める。

「入ってみれば楽しいですよ。地域を守る消防団員として一緒に活動しませんか」

堀越さんの愛郷精神と消防団の活動により、今後も地域の安全が守られていくことだろう。

市国際交流員から見た本市の魅力や母国の文化などを紹介するこのコーナー。今回はモロカイ島を紹介いたします。

モロカイ島は、私の日系二世の祖父が生まれ育った場所。人口約7,300人で、オアフ島から飛行機で30分の距離にあり、こんなにも街並みが違うのだと思わせるほどの田舎です。高層ビルやショッピングモールはもちろん、信号すらない島だからこそ、人々の目を自然に向けさせてくれます。人がどこにも見当たらない夕焼けのパパハクビーチや歴史深く息をのむほど美しい絶景を誇るカラウパパ国立歴史公園など、わずかなハワイ旅行者しか足を踏み入れていないであろう観光スポットがたくさんあります。そして、オアフ島に比べて時間がもっとゆっくり流れていき、その落ち着いた空気が心と体を癒してくれます。



釣りや狩りをするモロカイ住民が多く、その土地で取れるものを食べるのが主流。現代化したオアフ島と違い、モロカイ島はハワイの昔からの生活様式が垣間見える島です。私の家族も、待ち網漁や鹿狩りの習慣が代々受け継がれてきました。大変な準備をして山の奥で鹿を仕留め、その肉を数カ月後に食べるというプロセスが、「いただきます」の重さや命と食の大切さを教えてくれました。また、鹿の増加により森林や農作物への被害が課題になっている今、生態系における人間の役割や自然との共生、環境保護対策などについても考えさせてくれます。ぜひ、次のハワイ旅行はモロカイ島に行ってみてください。

